ふるさとの誇り 132

まるまる博レポート

通い帳を持って今日は何買う？

ふるさと○○（まるまる）博物館では、皆さまの家に眠っていたさまざまな資料をご提供いただき、調査を行なっています。それらの資料の中に、かつてどの家にもあった「通い帳」を発見することがあります。

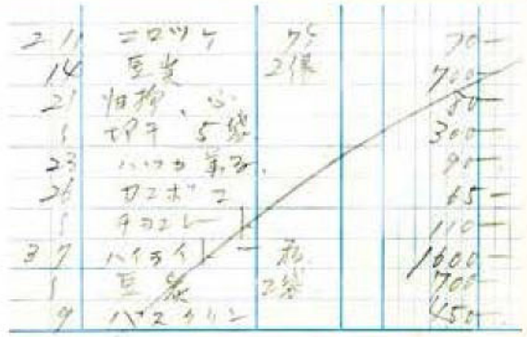
昭和30年代までは、お店で買い物するときには現金を持っていかずに、通い帳を持っていきました。買ったものの日付や品名、値段を記入してもらい、月末や盆暮れ、お米や麺の収穫時などにまとめて払えばよいのです。当時はたいていどこの商店でも、それぞれの店で発行するこの通い帳を持っていけば、お金がなくても日々の買い物ができました。通い帳での買い物は店と客の信頼関係がないと成り立たない仕組みですが、昭和30年代ぐらいまでは日本社会で広くこの慣習が行なわれていました。現代的な考え方からすると、個々の店からそれぞれ専用の電子マネーやクレジットカードが発行されているようなものでしょうか？

さらに、通い帳の中身を見れば、いつ何を買ったか一目瞭然で、当時の人々の日々の暮らしぶりが垣間見えます。

昨年行なった八田地区の調査では、昭和45年に使用された榎原区の「杉山商店」の通い帳と、野牛島区で現在も営業中の「中嶋商店」の発行した昭和11年の通い帳がふるさと○○博物館の資料として収蔵できました。少しだけ中を見せていただきましょう。

写真・文　文化財課

榎原「杉山商店」の通い帳（昭和45年）



「杉山商店」では昭和45年にコロッケを1ヶ10円で売っていたのですね。晩ご飯のお総菜になったのでしょうか？

そのほか、暖房用に使っていたのでしょう。定期的に豆炭の購入が見られます。

昭和5年発売の有名な入浴剤は今も昔もあまり値段が変わらないような気がします。

店主だった杉山つる子さんから写真などをご提供いただきました。

右下の昭和20年代の写真の後列左端にも写っています。

野牛島「中嶋商店」の通い帳（昭和11年）

こちらは野牛島で久保太家といわれた中島家と、野牛島諏訪神社前にある「中嶋商店」との間で使われた通い帳です。8月13日には来客でもあったのか30銭でお刺身を買っています。同じ8月の22日には、「みつ」と「キナコ」という文字が見えます。もしかしたら、甲州の夏の伝統食、餅にきなこと黒蜜をかける、あの「アベカワ」を家族で食べたのかもしれませんね。通い帳からは、当時の人々の日々の暮らしがよみがえります。

南アルプス市
ふるさと○○博物館
Furusato Maru-Maru Museum

地域情報の提供や調査へのご協力をお願いいたします。

ふるさと文化伝承館
電話：055-282-7408

ふるさと文化伝承館は、設備の改修工事のため**2月まで休館中**です。
ご迷惑をおかけしますがご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。
※開館の日程は決まり次第お知らせいたします。また、右上の電話番号は休館中もご利用いただけます。